

# 2024(令和6)年度保全技術研究会 主旨説明

令和6年11月20日

(一財)建築保全センター 林 理

メインテーマ

これからの公共建築マネジメントを考える

サブテーマ

DX(デジタルトランスフォーメーション)に  
おける自治体庁舎の将来像

1

## これまでの経緯と今回のメインテーマ設定

2013(平成25)年～2023(令和5)年  
「戦略的な公共建築マネジメントの取り組み」

総合管理計画

→個別施設計画の流れにおける諸々の課題  
それを解決する成功事例等の展開により取組を推進



地方自治体では、長期的な視点で、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、財政負担の軽減・平準化とともに、公共施設の配置の最適化のために、総合管理計画、個別施設計画を策定し、取組を進めてきている。

2

## これまでの経緯と今回のメインテーマ設定

2024（令和6）年～  
「これからの公共建築マネジメントを考える」  
脱炭素化、危機管理、働き方改革、人材不足、DXな  
どの新たな課題  
それらへの対応策を探り、公共建築マネジメントの  
方向性を議論

地球温暖化の進行、自然災害の激甚化、感染症の流行などへの早急な対応が行政に求められている。  
働き方改革や人材不足などは、行政のあり方に影響し、デジタル技術による行政サービスの利便性向上、業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていく取組も始まっている。

3

## 2024（令和6）年 サブテーマ

DX(デジタルトランスフォーメーション)における  
自治体庁舎の将来像

社会全体のDX推進の中で、自治体にはデジタル技術を活用して、住民の利便性向上・業務効率化を図り、行政サービスの向上に繋げていくことが求められている。また、職員の働きやすさに寄与するウェルビーイング(身体的、精神的、社会的に良好な状態)に働けるワークプレイスも目指す必要がある。このような動きは、自治体の庁舎等のあり方にも大きな影響を与える。

今回は、DXにおける自治体庁舎の将来像として、特に職員の仕事改革に焦点を当て、効率的かつ効果的に業務を遂行できる働きやすい庁舎の先行事例から見えてくる推進の方策や課題を踏まえつつ議論を行いたい。

4